

イデックスオイルレポート ~For a month~

2024年3月1日作成 (株)新出光

【月次概況】

●第1週、2/2のWTI原油は、72.28(先週比-5.73)ドルとなりました。連邦準備制度理事会(FRB)による早期の利下げ観測が後退。米国外でも、欧州中央銀行(ECB)理事会メンバーが早急な利下げに消極的な見解を示したほか、世界最大の石油輸入国である中国経済について、国際通貨基金(IMF)がこの日、2024年と25年の成長率予想を下方修正する可能性がある」と指摘。主要国・地域の景気減速に伴うエネルギー需要の鈍化懸念につながった。

●第2週、2/9のWTI原油は、76.84(先週比+4.56)ドルとなりました。2023年の米消費者物価指数(CPI)の年次改定を眺め、外国為替市場でドルが大幅下落。ドル建て商品の原油先物は割安感から買われ、一時77ドル台に上昇した。パレスチナ自治区ガザでの休戦に向けた動きに注目が集まり、相場は一貫して上伸。イスラム組織ハマスは6日、計135日間の戦闘休止案を提示したものの、イスラエルのネタニヤフ首相はこれを拒否し、ガザ最南端の都市ラファへの攻撃を強化している。

●第3週、2/16のWTI原油は、79.19(先週比+2.35)ドルとなりました。ガザ南部ハンユニスで最大規模のナセル病院に部隊を突入させた。軍報道官は「精密かつ限定的な作戦だった」と述べた。また同軍は16日、前日の作戦でガザ全土に空爆を加えたと明らかにした。中東情勢の緊張が高まる中、供給混乱への警戒感が広がり、原油価格を押し上げた。

●第4週、2/23のWTI原油は、76.49(先週比-2.7)ドルとなりました。米連邦準備制度理事会(FRB)のウォラー理事は22日の講演で、最近1カ月ほどの指標を踏まえれば「利下げ開始を急ぐことはない」と強調。利下げ開始時期を巡る不透明感が台頭。インフレ再燃に伴い高金利環境が長引けば、経済成長鈍化によるエネルギー需要の減速を招くとの警戒感が広がり、原油売りが活発化。

	2月平均	WTI原油	76.61ドル	前月比	2.75ドル	為替 1ドル	150.50円	前月差	2.85円
--	------	-------	---------	-----	--------	--------	---------	-----	-------

日付	補助金	変動幅	変動幅
2/1~2/7	21.4	+3.0	+3.0
2/8~2/14	19.8	-1.0	-1.0
2/15~2/21	19.4	±0	±0
2/22~2/28	21.3	+3.5	+3.5
2/29	21.6	-1.5	-1.5

【単位:円/KL】

メニュー価格推移	0.5HPP		ENEOS LS船用燃料油基準価格	
	2023年10-12月C重油決定価格	104,660	108,340	(104,660(メニュー)+3,680(プレミアム))
	2024年1-3月C重油仮価格	93,270	95,630	(93,270(メニュー)+2,360(プレミアム))
	2024年1-3月C重油決定価格			
	決定価格10-12月比			

【単位:円/KL】

内航燃料油価格推移	適合C重油		A重油
	2023年10-12月決定価格	113,740	未決着
	2024年1-3月仮価格	101,030	
	2024年1-3月決定価格		
	決定価格10-12月比		

CIF価格推移	年/月	9桁速報	原油CIF価格 円/kl	通関CIF ドル/bbl	為替レート 円/ドル	原油CIF価格 前月比
	24/1	貿易統計速報	77,730	86.34	143.13	-5.746
	24/2	最終予測	77,456	83.14	148.11	-274
	24/3	展望	76,715	84.11	145.00	-741
	24/4	展望	75,732	84.19	143.00	-983

【次世代エネルギー】〈マツダがアンモニア「専焼」に挑む 脱炭素へ石炭火力の自家発電を停止〉

自動車メーカーのマツダが2030年までに、自家用の火力発電設備の燃料を石炭からアンモニアに転換する動きが進行しています。この取り組みは、脱炭素の旗印の下で地元企業が連携し、サプライチェーン構築が進められています。具体的には、2030年までに自社工場のCO2排出実質ゼロを目指し、アンモニア専焼発電に取り組んでいます。

マツダは石炭火力を停止し、アンモニア発電設備を新設することで排出を削減する計画を立てています。

石炭火力の代わりにアンモニアや水素を燃料とする火力発電の導入が進められており、政府もその方向性を支持しています。

アンモニア専焼発電に挑戦する企業が増えつつあり、三菱商事を中心とした協議会も設立されました。

マツダの取り組みは、国内外の自家発電において先駆的な役割を果たしています。

これらの取り組みにより、サプライチェーンが整備され、アンモニア専焼発電の普及が進むことで、国内外での脱炭素化が促進される可能性があります。価格や安定供給など課題もありますが、技術開発や国際連携を通じて、日本の脱炭素技術の世界展開に貢献する可能性もあります。

出典: 日経ビジネス <https://business.nikkei.com/atcl/gen/19/00159/020200217/>

【3月価格変動要因】

●需要・供給:

・継続して地政学リスクやOPEC+の減産が相場の下支えとなっている。一方で、主に米国であるが非OPECからの原油生産の増加によるグローバルな需給環境の緩和も否定できず、在庫の余剰感が一層の上値追いを阻む要因として挙げられる。

・中国人民銀行による住宅ローンの主要指標金利の引き下げが記憶に新しい。5年物ローンプライムレートは25bps引き下げられ3.95%となり、同金利が2019年に導入されて以来最大の下げ幅となった。前年比でみると引き続きマイナスの伸びが拡大しており、根強い不動産不況が相場の重しとなっている。

・米国市場ではこれまで米利下げ時期が焦点となっていたが、ここに来てインフレ再燃懸念が再びテーマ性を帯び、利下げ時期の後退、或いは一段の利上げもリスクとして意識されるようになってきた。結果的に金利上昇とドル高が原油相場にとって逆風となった向きもある。

●リスク資産・金融市場:

・日経平均株価も史上最高値を更新。直近の騰勢には過熱感もあり、利益確定による売り・3月の日銀金融政策決定会合における金融政策正常化に向けた発言・地ならしには警戒したいところ。

・3月第一週にはOPEC+において協調減産の継続が合意される見通し。OPEC絡みの話題は報道直後原油買いで反応しやすいものの、減産とは即ち需給の緩和を示唆するとともにとられやすく、その後は下落に転じることも多い。

<1ヶ月価格見通し> (単位:US/bbl)

	Brent	WTI
High	86	82
Average	80	76
Low	74	70

<3ヶ月価格見通し> (単位:US/bbl)

	Brent	WTI
High	89	85
Average	82	78
Low	75	71

日付	国	3月経済指標カレンダー	日付	国	3月経済指標カレンダー
1	ユーロ	2月消費者物価指数	12	米国	2月消費者物価指数(CPI)
1	米国	2月ISM製造業景況指数	14	米国	2月小売売上高
5	米国	2月ISM非製造業景況指数	18	ユーロ	2月消費者物価指数
6	米国	2月ADP雇用統計	19	日本	日銀金融政策決定会合、終了後政策金利発表
6	米国	パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長、発言	19	日本	植田和男日銀総裁、定例記者会見
7	ユーロ	欧州中央銀行(ECB)政策金利	20	米国	米連邦公開市場委員会(FOMC)、終了後政策金利発表
7	ユーロ	ラガルド欧州中央銀行(ECB)総裁、定例記者会見	20	米国	パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長、定例記者会見
7	米国	パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長、発言	22	日本	2月全国消費者物価指数(CPI)
8	ユーロ	10-12月期四半期域内総生産(GDP、確定値)	25	米国	2月新築住宅販売件数
8	米国	2月非農業部門雇用者数変化	28	米国	10-12月期四半期実質国内総生産(GDP、確定値)
8	米国	2月失業率	29	米国	2月個人消費支出
8	米国	2月平均時給			
11	日本	10-12月期四半期実質国内総生産(GDP、改定値)			